

事務事業評価シート(事後評価)

事業コード 08-03-03	事務事業名 剪定枝等資源化事業(リサイクル推進事業費)	所管部課 みどり環境部 ごみ減量推進課
-------------------	--------------------------------	---------------------------

施策コード 環2-2	施策名 ごみ対策の推進	施策目標 できるだけごみを出さないという意識づくりや、ごみ減量化への取組を通して、環境負荷の少ない循環型社会の構築をめざします。
---------------	----------------	---

事務事業の概要	事務事業の目的	根拠法令等
	リサイクル推進事業の一環として、一般家庭から排出される庭木の剪定枝等を堆肥化することにより、ごみの減量化を推進するとともに資源の再利用を図る。	<input type="checkbox"/> 法律 <input type="checkbox"/> 条例・規則 <input type="checkbox"/> 政令・省令 <input type="checkbox"/> 要綱・要領
	事業内容・実施方法等/補助の概要:補助団体の概要(団体名・団体の活動内容・補助金の活用内容等)、補助金の概要(国・都基準の有無・対象者拡大の有無・上乗せ補助額・市単独補助額)等 ※該当する予算事業名・節目を明記する 一般廃棄物処理基本計画(H19.3)に基づき、家庭から5袋以上の剪定枝等(自ら伐採・剪定した樹木・枝・葉)が出た場合に、市が直接連絡を受けて回収をする。その後、回収した剪定枝等は、委託業者に運び堆肥化する。平成22年度は、モデル事業として実施したが、平成23年度からは本格実施となる。	
事業開始時期	22年度	実施形態 <input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> その他( )

項目	単位	20年度	21年度	22年度	23年度
事業費(A)		0	0	2,312	4,632
財源内訳					
国庫支出金・都支出金		0	0	0	0
地方債	千円	0	0	0	0
その他( )		0	0	0	0
一般財源		0	0	2,312	4,632
所要人員(B)	人	0	0	0.26	0.43
人件費(C)=平均給与×(B)	千円	0	0	2,101	3,511
臨時職員賃金等(C')	千円	0	0	0	0
総コスト(D)=(A)+(C)+(C')	千円	0	0	4,413	8,143
単位当たりコスト(E)=(D)/(収集量)	千円	0	0	62	45

活動等指標	単位	20年度	21年度	22年度	23年度
① 収集量	実績値 トン	0	0	71	180
②	実績値				
《指標の説明・数値変化の理由 など》 モデル事業として22年度から実施している。					
成果指標	単位	20年度	21年度	22年度	23年度
一 可燃ごみ量	目標値 トン				
	実績値 トン	24,521	24,261	20,375	
二 次	目標値				
	実績値				
《指標の説明・数値変化の理由 など》 可燃物の中には、剪定枝・草・落ち葉等がごみとして排出されているため、当事業を実施することにより可燃ごみの減量を図ることができる。					

事業環境等	市民・関連団体等の意見(アンケート結果など)	堆肥化されることにより、ごみの量が減量できれば大変環境に良いとの意見がある。
	都内26市のサービス水準との比較(平均値、本市の順位など)	<input type="checkbox"/> 上 <input checked="" type="checkbox"/> 中 <input type="checkbox"/> 下 多摩地域では26市中18市が剪定枝等の資源化を実施しており、堆肥化の方法も同程度なので中とする。
	代替・類似サービスの有無	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 代替・類似サービスはない。

事業コード 08-03-03	事務事業名 剪定枝等資源化事業（リサイクル推進事業費）	所管部課 みどり環境部 ごみ減量推進課
-------------------	--------------------------------	---------------------------

施策コード 環2-2	施策名 ごみ対策の推進	施策目標 できるだけごみを出さないという意識づくりや、ごみ減量化への取組を通して、環境負荷の少ない循環型社会の構築をめざします。
---------------	----------------	---

【一次評価】

検証項目	ランク	一次評価	○検証項目、評価の判断理由 ○事業実施上の課題や今後改善すべき点等
A	事業の優先度 (緊急性)	2	<input type="checkbox"/> 拡充  <input checked="" type="checkbox"/> 継続実施  <input type="checkbox"/> 改善・見直し  <input type="checkbox"/> 抜本的見直し  <input type="checkbox"/> 休止  <input type="checkbox"/> 廃止
	事業の 必要性	3	
	事業主体の 妥当性	2	
B	直接のサービス の相手方	2	
	事業内容等の 適切さ	2	
	受益者負担の 適切さ	2	
C	市民ニーズの 把握	2	

平成22年度に組成分析を行った結果、市内の戸建住宅から出る可燃ごみの内「剪定枝・草」の占める割合が約30%と多く、可燃ごみの減量化には、この「剪定枝・草」を取り除くことが効果的な手段と考えている。  
 前回の行革本部評価において、市内循環経路の確立との指摘を受け、休止との評価となったが、その後の検討の中で、市内循環については場所や経費の問題から実現困難との判断に至った。その後、事業の見直しを行い、中間処理及び最終処分における可燃ごみの処理費用を抑えるという点及び環境への配慮の観点から事業実施に至っている。剪定枝を可燃ごみ処理した場合の費用は1Kgあたり38円程度であるが、本事業における経費では1Kgあたり26円程度と想定される。（収集運搬費用は同額と想定）また、最終処分場への可燃ごみ焼却灰の搬入量の低減にもなる。

検証項目の見方 A:事業実施の意義を検証する項目 B:事業の内容・実施方法を検証する項目 C:市民ニーズの反映度を検証する項目

【二次評価】

検証項目	ランク	二次評価	○検証項目、評価の判断理由 ○事業実施上の課題や今後改善すべき点等
A	事業の優先度 (緊急性)	2	<input type="checkbox"/> 拡充  <input checked="" type="checkbox"/> 継続実施  <input type="checkbox"/> 改善・見直し  <input type="checkbox"/> 抜本的見直し  <input type="checkbox"/> 休止  <input type="checkbox"/> 廃止
	事業の 必要性	2	
	事業主体の 妥当性	3	
B	直接のサービス の相手方	3	
	事業内容等の 適切さ	1	
	受益者負担の 適切さ	3	
C	市民ニーズの 把握	1	

平成16年度から実施されたモデル事業で、平成18年度の事務事業評価では、剪定枝の市内における循環経路が確立されておらず移送費をかけて市外に移送していることが指摘され、市内循環経路を確立するした上で事業の再構築をしていくべきと指摘された。その後は一次評価にもあるが、喫緊の課題となっていた可燃ごみの減量及び費用面から本事業が有効と判断され、リサイクル事業というよりは可燃ごみの減量を目的として、再び事業化されている。その点については一定程度の成果は認められるが、事業の最終的な目標等は示されておらず、曖昧なままである。次期計画を作成する中で、将来の方向性を明確化されたい。

検証項目の見方 A:事業実施の意義を検証する項目 B:事業の内容・実施方法を検証する項目 C:市民ニーズの反映度を検証する項目

【行革本部評価】

行革本部評価	評価の判断理由及び事業実施上の課題や今後改善すべき点等
<input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 継続実施 <input checked="" type="checkbox"/> 改善・見直し <input type="checkbox"/> 抜本的見直し <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止	<p>本事業は、可燃ごみの減量や処理費用の面で有効な事業であり、今後も継続して実施すべきものと評価できる。ただし、事業が軌道に乗ってきたことも踏まえ、現在は市直営となっている回収作業について、現業職員の体制や費用対効果等も勘案しながら、時機を見て委託化を進める方向で検討されたい。</p>